

—地震への備え—

もしもの備えがいのちを守る



SDGsの関連アイコンを特集ページに標記しています

災害の中でも、ある日突然やってくるものの一つが地震です。世界でも有数の地震大国である日本。これからも狭山市で安心して暮らし続けていくために、地震災害を正しく知る必要があります。

首都直下地震や南海トラフ巨大地震などが発生した場合、それに伴う家屋倒壊や火災、避難する歩行者や自動車による渋滞が発生し、さらに避難が困難になる可能性があります。

いつ大きな地震が来ても慌てず対応ができるよう、事前に準備をしておくことが大切です。



災害リスクを確認しよう

立川断層帯地震が発生した場合、狭山市では震度5強から6弱の揺れが想定されています。[狭山市防災ガイドブック]には、この地震の想定震度を記載した「ゆれやすさマップ」を掲載しています。お住まいの地域の震度がどの程度になると想定されているか、確認しておきましょう。



▲狭山市防災ガイドブックはこちら

狭山市で想定される被害は

平成23年に発生した東日本大震災では、市内で震度5弱の揺れが観測されました。立川断層帯地震が発生した場合、さらに大きな揺れが起こると想定されています。漠然と「大きく揺れるかもしれない」ではなく、震度によってどのような被害が出る可能性があるのか、事前に正しく認識しておきましょう。

震度5強

物につかまらなさと歩くことが難しい

- 棚にある食器類や本が落ちることがある
- 補強していないブロック塀が倒れることがある



震度6弱

立っていることが困難

- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある
- 固定していない家具の大半が動き、倒れるものがある



非常持出品・備蓄品を準備しておこう

避難所の災害用備蓄品には種類や数に限りがあります。いざという時に持ち出す「非常持出品」を事前に準備しておきましょう。

また、在宅避難の場合は、電気、水道、ガスが使えなくなるばかりでなく、物資が手に入りにくくなる可能性があります。避難生活が長期にわたることを想定し、食料や飲料水、携帯トイレなどの「備蓄品」も事前に用意しておきましょう。



▲詳細はこちら

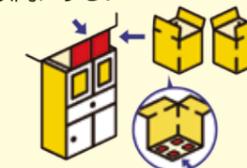


家具の配置の工夫や転倒防止対策をしよう

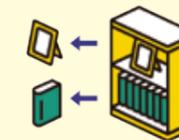
平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、死因の8割以上が住宅などの倒壊や家具の転倒による圧死とされています。倒れやすい家具がないか、家具の配置は大丈夫かなど自宅内を点検し、事前に対策をしましょう。

天井と箱の隙間は2cm以内にする。

箱と家具の間に弱粘性の粘着マットをはさむ。



つっぱり棒のかわりに家具と天井の隙間を段ボール箱などでつめる。



重いものを下に軽いものを上に収納し、家具を倒れにくくする。

(埼玉県「イツモ防災講座」配布資料より引用)



▲埼玉県ホームページ



住宅の耐震性を確認しよう

市では、木造住宅を対象に、家屋に関する不安を一級建築士に相談できる、「わが家の耐震リフォーム相談」を無料で行っています。万が一の地震に備えたさまざまな相談を受け付けています。お気軽にご利用ください。

問合せ 建築審査課へ内線 2177



▲耐震改修の詳細はこちら

避難情報などの取得方法

大きな地震の発生に伴い、建物の倒壊や火災、土砂災害などの二次災害が発生する恐れがあります。その際に発信・発令する避難所開設情報や、高齢者等避難、避難指示などの情報は次の方法で取得できます。

防災行政無線

放送された内容は、電話や市公式ホームページで確認できます。

☎ 0120-81-3804



▲詳しくはこちら

メール配信サービス

狭山市の気象情報や避難に関する防災情報などを、事前に登録されたメールアドレスにお届けします。



▲詳しくはこちら

狭山市公式SNS



Twitter



Facebook



狭山市LINE公式アカウント
ID: @citysayama

テレビ埼玉「データ放送サービス」

インターネットが利用できない環境でも、緊急情報を文字で確認することができます。



▲詳しくはこちら

緊急速報メール(エリアメール)

国からの警報、災害・避難情報を、市内の携帯電話に一斉配信します。

問合せ 危機管理課へ内線 3695